

（エ）まっど！倫理考です。昨夜から今朝にかけて西日本中心に大雨です。不規則な降水帯から恐怖を感じます。失敗の教訓、誤りを運んでいます。

## 今週の 倫理

いきすネ

幸せ運ぶマホー鳥

2023.7.1~7.7

7月のテーマ | 身にしみた教訓

1340号

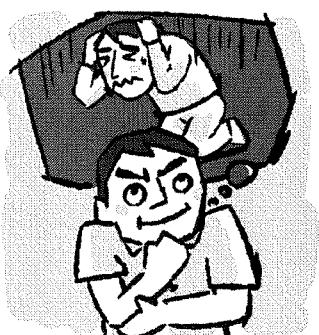
毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

私たちの日常生活は、すべてが好都合にはこぶというものではなく、喜怒哀楽、さまざまの感情の中で、失敗したり、苦難にぶつかったりして、七ころび八起きの毎日といつても、かならずしも言いすぎではないであろう。

そんな毎日の中で、失敗や不安、また不満に対して、私たちはどのようにとりくみ方をしたらよいのだろうか。そのとりくみ方によつて、私たちの生活がプラスに向かかマイナスに向かか、大きなわかれめとなつてくる。これらについては深く見つめ、はつきりとした信念を固めておきたい。

さてここでは特に失敗の面をとりあげてみよう。私たちはしばしば、自分の犯した失敗と正面から向き合わなければならなくなるときがある。

「こんな失敗をしてしまったよ」と笑つてしませるようななささいな失敗ならば、たいしたことはないだろうし、また「すみませんでした」とその場でおわつてしまふことのできる軽いものもある。しかし大きな失敗になると、とてもそれだけではすまされなくなる。自分で弁償しなければならなかつたり、自分でだけの問題ではすまされず、他の人に迷惑を及ぼすことになつてしまつたりもする。そしてまた、会社全体にかな



## 「失敗」こそわが師

丸山竹秋

りマイナスを負わせたと、ひけめを感じなくてはならない場合も生ずるであろう。どんな失敗にせよ他を責め、それだけでもをつけようとするのではプラスにならない。自分の失敗については、それを自分の問題としてとらえ、そこには必ず自分としての原因があることを見きわめることができ。そして、原因の追究が肝心なのだ。そうすると「次はこの失敗をくり返すまい」また「このような問題がきたら、こんなふうに注意してやればいいんだな」と反省でき、非常によい教訓が得られる。

こう言つてしまふと「そんなことはわからりきつたことだ」とか「百も承知だ」という人もある。しかしあかりきつたはずのことを、案外忘れ去つてしまいやすい日常ではなかろうか。「わかっている。わかつている」という人に限つて実際に失敗に直面すると「しまつた、しくじつた」と頭をかかえこむだけで、原因の追究をいいかげんにして、ごまかしてしたりすることが多いのではないか。承知しているとだけ言つてはなかろうか。承知しているとだけ言つているのと、実際の失敗をプラスに向きかえているのとは、根本的に違うのである。

失敗したとき、どのような原因でこの失敗に到つたかを考え、ふり返つてみると、必ず教訓として返つてくるものがある。この教訓こそ生きた師にほかならない。

失敗したあの生き方や態度こそ、重要なのだ。そこから、身にしみた教訓をたしかにかみとることが、そのポイントである。（いかに乗りきるか）より